

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	普	通	預	金	受	取	手	形
売	掛	金	前	払	金	商		品		立	替	金	
支	払	手	形	買	掛	金	前	受	金	商	品	売	買
仕		入		発	送	費	支	払	手	数	料	保	管
雑		費		旅	費	交	通	費	仮	払	金	仮	受
													金

- 得意先に対し商品（原価¥63,000）を¥105,000で販売し、代金のうち¥35,000は手付金を充当し、残額は掛とした。なお、販売に際し商品の発送費用（当店負担）¥2,000を運送会社に現金で支払った。
- 月末において清掃会社へ事務所クリーニング代¥36,000および倉庫会社へ商品の管理手数料¥190,000を現金で支払った。
- 営業活動のために電車を利用し、ICカードを用いて電車代¥3,800を支払った。なお、チャージ時に仮払金勘定で処理し、使用時に費用計上する方法を用いている。
- 得意先から本日売掛金の入金があり、振込手数料（当店負担）¥270が差し引かれた残額の¥94,730が普通預金口座に振り込まれた。
- 仕入先に対する買掛金¥450,000の支払いとして、約束手形¥400,000を振り出し、残額は現金で支払った。

第2問 (10点)

綿氏商店の次の得意先元帳の記入をもとにして、答案用紙の売掛金勘定の空欄を埋めなさい。ただし、期首の貸倒引当金残高は¥23,000であった。

得意先元帳

湯本商店

1/1	前	期	繰	越	120,000	5/10	返	品	50,000						
5/8	売			上	406,000	11/15	約	束	手	形	に	て	回	収	456,000
9/12	売			上	150,000	12/31	次	期	繰	越					170,000
					676,000										676,000

熱海商店

8/15	売			上	350,000	10/31	小	切	手	に	て	回	収	280,000
10/1	売			上	190,000	12/31	次	期	繰	越				260,000
					540,000									540,000

箱根商店

1/1	前	期	繰	越	25,000	4/15	貸	倒	れ					25,000
-----	---	---	---	---	--------	------	---	---	---	--	--	--	--	--------

第 4 問 (10点)

次の文の①から⑤までにあてはまる最も適切な語句を下記の【語群】から選び、ア～ソの記号で答えなさい。

1. 販売用の車両を購入し、代金は後日支払いとした場合の貸方は (①) 勘定で処理をするが、当該勘定科目は五要素でいうと (②) に該当する。
2. 決算において、期中仕訳で計上された収益および費用を当期に帰属する収益および費用に修正するための仕訳は (③) 仕訳に該当する。
3. 日々の取引の記録、経営成績および財政状態の把握のため、複式簿記によって記帳する仕訳帳および総勘定元帳を総称して (④) という。
4. 現金過不足勘定、損益勘定など、五要素のいずれにもあてはまらない勘定を (⑤) という。

【語群】

ア 経過勘定	イ 財務諸表	ウ 試算表	エ 純資産	オ 資産
カ 決算振替	キ 車両	ク 特殊勘定	ケ 未払金	コ 評価勘定
サ 決算整理	シ 負債	ス 会計帳簿	セ 補助簿	ソ 買掛金

第 5 問 (30点)

次の未処理事項・決算整理事項にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、会計期間は 1 月 1 日から 12 月 31 日の 1 年間である。

未処理事項・決算整理事項

1. 決算日において金庫の中には次のものが保管されていた。
① 紙幣・硬貨 ¥30,800 ② 他店振出小切手 ¥120,000 ③ 配当金領収書 ¥ 3,000 (未処理)
2. 当期中における内容不明の入金 ¥150,000 について、土地売却による掛代金の入金であることが判明した。
3. 7 月 1 日に備品 ¥50,000 を普通預金にて取得したが、次のように記帳をしていた。
(借方) 普通預金 ¥ 50,000 (貸方) 備品 ¥ 50,000
4. 期末商品の棚卸高は ¥243,000 であった。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
5. 建物および備品について定額法により減価償却を行う。なお、当期中に取得した備品については月割りで減価償却費を計上する。
建物 残存価額：取得原価の 10% 耐用年数 40 年
備品 残存価額：ゼロ 耐用年数 8 年
6. 売掛金の期末残高に対して 2% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
7. 保険料は火災保険料を処理したものであり、毎年 8 月 1 日に 1 年分の前払いをしている。なお、当期の支払いから月 ¥500 分値上げされている。
8. 貸付金は、前期の 10 月 1 日に貸付期間 2 年、利率年 3% の条件で貸し付けたもので、利息は毎年 9 月末に 1 年分を受け取ることになっている。なお、利息の計算は月割りによる。